

一人ひとりに
寄り添う政治を。世田谷
ち谷

つるみけんご

世田谷区議会議員

無所属

通信
Vol.31

世田谷から未来を変える。

特定の団体や企業のためではなく、しがらみのない立場で、本当に困っている人の声を受け止められる”一人ひとりに寄り添う政治”の実現を目指して「つるみけんご」は、活動が続けます。

つるみけんご

鶴見健悟プロフィール

- 1986年(昭和61年) 10月12日生まれ 38歳
 - 世田谷区立駒沢保育園、駒沢小学校、駒沢中学校、東京農業大学第一高等学校、東京農業大学応用生物科学部 (バイオサイエンス学科 卒)
 - JA東京中央会 元職員
 - 衆議院議員 長妻昭 元秘書
 - 公務員試験専門 喜治塾 元講師
 - 2019年世田谷区議会議員選挙で初当選(4491票)
 - 現在、2期目 (4755票)
- 区民生活常任委員会
DX・地域行政・公共施設整備等推進特別委員会



つるみけんごは
“認知症サポーター”です！

この度はつるみけんご通信Vol.31をお手に取って頂き、誠にありがとうございます。
本通信では、令和7年第2回世田谷区議会定例会の一般質問の内容をまとめました。
ぜひご覧ください。(※議場での質問の様子は、右の二次元コードよりご覧ください。)



つるみけんごの
会議の録画映像を
ご覧いただけます。

世田谷区議会
インターネット
議会中継

質問 教育の質を高める学校支援。人材不足への対応を問う。 ～未来を担う子ども達のために、学びの環境整備を～

質問の要旨

教員採用倍率の低下と若手教員の早期離職が続く中、学校運営の不安定化と教育の質の低下が懸念されます。

こうした中、世田谷区教育委員会は、新たに「学級経営支援教員」の配置を計画し、本年4月から4名体制でスタート予定でしたが、実際の配置は1名にとどまり、人材確保が進んでいません。

応募が来ない原因をどのように分析しているのか、今後の着実な人材確保に向けての対応策と併せてお考えを伺います。さらに緊急的対策として、新人教員の育成と欠員が出た場合の学級運営をいかに支えていくのか、その対応策について見解を伺います。

区の答弁の要旨

現場にも協力頂き、早期の人材確保に全力で取り組む。今後の人材確保に向け、課題を洗い出し、応募全般について検討していく。さらに支援が必要との要請に応じて、教育委員会で任用している教育支援嘱託員や指導主事が学校を訪問し、協力して育成に努めていく。

つるみけんごコメント

課題意識を持ち、具体策を提示した教育委員会の姿勢に誠実さを感じました。教員支援や学校環境の整備をはじめ、一つずつ着実に教育改革を積み重ね「子ども達の学びの環境」を整えて参ります。

質問 高齢者のくつろげる居場所の全体像と整備スケジュールを問う。 ～高齢者の孤立・孤独防ぐ。身近な場所にくつろげる居場所を～

質問の要旨

令和3年度に世田谷区において、“高齢者のくつろぎの場”が、計画上初めて明確に位置づけられて以降、区は区内28地区に各地区単位で整備を図ることを目標に掲げてきました。

しかし、地区展開の全体像と各地区における整備スケジュールはいまだ明らかにされておられません。

区として、今後の地区展開の全体像と各地区における整備スケジュールを明らかにし、地区展開を着実に前に進めるべきと考えます。区のお考えを伺います。



区の答弁の要旨

これまで地区展開に向けた検討を進めてきたが、新たな場所の確保は困難な状況であり、その打開策を見いだせないことを踏まえ、今後は地区に限定することなくより幅広い視点で居場所づくりを進めていく。

つるみけんごコメント

従前の答弁から一転、全地区展開の方針転換を図るという趣旨にも受け取れますが、到底認められません。議会でのこれまでの議論、答弁の積み重ねを軽んじることは議会軽視であり、あってはならないことです。引き続き、地区展開の実現を求めて参ります。

質問 「待たない窓口」を掲げるも、待ち時間48分へ大幅増。責任を問う。

～「区民に時間を返す改革」の見える化を～

質問の要旨

区長はかねてより、「区民に時間を返す改革の実現」を掲げ、「待たない窓口」を目指すと言明しています。しかし、実際には令和6年度末の混雑期の平均待ち時間は、前年の33分から48分へと大幅に増加しています。

区が区民に時間を返す改革を行っているはずなのに、実態は「区民の時間を奪う結果」となっている、ということです。これはリーダーシップの問題です。

「区民に時間を返す改革」について、年次別計画や目標数値等を、区民・議会に明らかにし、**実効性のある改革**にすることがトップの責任であると考えますが、区の見解を伺います。



区の答弁の要旨

昨年の33分から48分と増える結果となったことについては、担当副区長として重く受け止めている。令和8年の混雑期の待ち時間縮減に向けては、現在作業中の詳細な整理分析をすすめ、目標数値等を設定できるかについても検討し、その結果を9月に示し、実行性のある対策につなげていく。

つるみけんごコメント

これだけ待ち時間が増加し、区民の皆さまを長時間お待たせしている状況にもかかわらず、「目標を設定できるか検討する」という姿勢は、果たして適切と言えるのでしょうか。私たち区民には、行政サービスを選ぶ自由はなく、住んでいる地域の役所を利用するしかありません。だからこそ、**区民の利便性を第一に考え、実効性のある改革**を着実に進めていただくことを、引き続き強く求めてまいります。

質問 区の認識は、条例の趣旨を踏まえているのでしょうか？

～歩いて行ける場所に、頼れる“街の行政拠点”を～

質問の要旨

令和4年に議決・施行された地域行政推進条例では、まちづくりセンターが、「地区の行政拠点として、多様な相談及び手続きに対応する窓口を担う」ことが定められています。

区民が歩いて行ける範囲で相談や手続きができる、困りごと地域活動も、まちづくりも、身近な場所のまちづくりセンターが受け止めてくれる、これこそが条例が目指す「世田谷の地域行政の姿」です。

区長は、就任当初27か所あった出張所・まちづくりセンターを回り「“宝”だと思った」と発言しました。その宝たるまちづくりセンターを区役所の最前線としてフル活用するために、区の行政全体を改革していくこれが条例制定の意義です。

ところが、5月23日の特別委員会において、区は「まちづくりセンターで担う業務は、コミュニティ強化がメインで事務手続については別に考えている。」との認識を示しました。

区の認識は、条例の趣旨を踏まえておらず、残念ながら、**区の姿勢は条例軽視**と言わざるを得ません。条例の**基本理念に立ち返り、区としての認識を改めるべき**です。区のお考えを伺います。

区の答弁の要旨

まちづくりセンターでは、地区まちづくりの支援、地区防災力の向上への支援など様々な役割を担っている。行政サービスを主とした「くみん窓口」や「出張所」の機能との整合や調整を図りながら、区民の皆様の最も身近な区役所として、適切な行政サービスの提供に努めていく。

つるみけんごコメント

区の答弁は、質問の本質には答えていません。

平常時から区民と行政が身近につながる体制の要となるのは「相談・手続き」であり、条例の基本理念に照らせばこれこそが、まちづくりセンター改革の一丁目一番地です。

たとえば、新型コロナウイルス流行初期には、ワクチン予約の電話が繋がらず困惑する区民に対し、まちづくりセンターが予約支援を行うなど、大きな役割を果たしました。このように、**災害時や緊急時に、身近な場所に行政の拠点があること自体が、住民の安心に直結します。**

区民の皆さまが日頃から安心して足を運べ、いざという時には「真に頼れる場所」となるよう、まちづくりセンターの役割強化を主軸に、**地域行政改革**をこれからも一歩一歩、着実に進めてまいります。

【区民との約束を守る区政を】

待たない窓口を実現すると言われ、待ち時間が増加する。まちづくりセンターの相談手続を強化すると言われ、それは別だと言われる。高齢者のくつろげる居場所の地区展開が必要だと言われ、それは難しいと言われる。残念ながら、これが今の世田谷区です。**区民に対する約束を守る**。これは区民の生活を守る基礎的自治体としての責務です。（※以上は答弁を受けて、議場で区に対して申し述べた一言です。）

つるみけんご事務所

〒154-0003 東京都世田谷区野沢4-14-4

TEL.03-6322-0575

✉ kengo@k-tsurumi.net 🌐 <http://k-tsurumi.net>

つるみけんご
日々の活動
発信中

f Facebook

@ Instagram

Twitter

YouTube

